

## ● 7つの H[a] な物語

### 【プロローグ】

「本田社長、今日はありがとうございました」  
「お疲れさま、松井くん。それじゃ今回もしっかり頼むよ」  
「はい！」

本田は嬉しさを抑えきれず、ニヤついた顔のまま帰路についた。  
社員の松井が依頼を受けた新規のお客さまとの、初回の打ち合わせを終えての事だった。  
お客さまに安心して頂くため、本田は初回の打ち合わせには必ず同席している。  
以前はふがいない社員の受け応えに我慢ができず、本田が割り込んでお客さまと直接話をしてしまうことも多かったが、それも最近は無くなっていた。  
松井の信頼感のある受け応えに満足し、今回も安心して任せることができている。

本田が社長を務めるのはホームページ製作会社・株式会社 AAA（トリプルエース）。今は優良企業と言っても差し支えないが、この状態になるまでにはたくさんの失敗と困難があった。3年前は本当にひどい状態だった。社員には全くやる気が無く、会社への信頼のかけらもない。同じ状況があと半年も続くと、廃業せざるを得ないほどの状態であった。

本田のその窮地を救ったのは「7つの H」。  
組織に本当の幸せを産み出すナレッジである。

この物語は、廃業の窮地にあった本田が「7つの H」に出逢い実践することで、見事会社を復活させた軌跡を記したものである。

物語は3年前、本田が「7つの H」と出逢う少し前から始まる。

### 【小さく光る希望】

「まずい・・・まずいぞこれは。  
売上が昨年対比 70%にまで落ちている・・・」

本田は、会社のパソコン画面で、業績推移グラフを見て愕然とした。  
創業第4期、株式会社AAAはかつてない程の業績不振に陥っていた。

本田が株式会社AAAを立ち上げたのは30歳の誕生日のこと。「30歳までに独立する」という目標を掲げていた本田は、正にその日に株式会社AAAを立ち上げた。社員は前職の後輩である中村一人だけ。細々としてはいたが意気揚々としたスタートだった。

本田の前向きで行動的な人柄は、お客さまの受けも良く、前職のお客さまから数社紹介してもらえたおかげで、スタートはまずまず順調だった。

株式会社AAAのホームページ制作ポリシーは「独自の世界観であなたの会社を表現します」。右脳派・本田の類まれな感性で、今までにない新しいカタチのホームページを製作する。そのセンスは新進気鋭の経営者達に受け入れられ、次々にお客さまは増えていった。

お客さまが増えるにつれ、社員の雇用も増えた。3年目に入ると、社員は10名にまで増えていた。本田は、社員に仕事を任せようと試みるがこれが思うようにいかない。思うようなアイデアが出てこない社員たちにイラつく本田は、ことあるごとに社員を怒鳴りつけた。

「松井！こんなホームページなら、どこにでもあるだろ！  
こんなページを見て誰が斬新だと思うんだよ！ お前何年やってんだ！」  
「はい・・・すみません」

本田にとっては大きな誤算だった。  
社員が増えれば自分の仕事を任せられると思っていたが、そう上手く事は運ばなかった。社員のアイデアに満足できない本田は、全ての企画に口を出し全てを取り仕切っていた。

「くそお、誰も使えねえ。  
オレがやらなきゃ、何もできねえのかよ・・・」

お客さまが増え・社員が増え・売上も上がるに比例して、本田の負担も増大していった。この頃から、社内では異変が起き始めていたが本田はまだ気づいていない。

「オレたちがいくら考えても、結局社長のアイデアしか通らないんだよな」  
「いいじゃん、社長に考えさせておけば。オレたちはその方が楽しさ」  
「まあそうだな・・・」

社員の間ではこのような会話が囁かれるようになっていたのである。

本格的に具合がおかしくなってきたのが、創業4年目に入った頃。

お客さまは1年目の10倍、社員は15名となっていた。ただし、この1年は業績の下降が顕著で、売上は昨年比70%にまで落ちていた。この頃の本田の仕事量は増えに増え、1日15時間以上休みなしで働く日々が続いていた。業績が落ち始めていることに薄々は気づいていたが、忙しさに<sup>かま</sup>感<sup>け</sup>、正確には把握できていなかった。そのため、久しぶりに見た業績で愕然としたのだ。

「何でだよ…こんなに忙しいのに…このままではまずいぞ…  
悪くなっているとは思っていたが、これほどまでとは…」

焦りを感じた本田は、社内会議で檄を飛ばす。

「お前ら、何やってんだよ！  
社員は去年より5人も増えてんのに、売上は昨対70%だぞ！  
どういう事だよこれは！！ちゃんと働いてんのか!!!」

「…す、すみません」  
「申し訳ありません…」

社員から返ってくる返事には覇気が感じられない。

本田は悩み始めていた。

（何でだ…3年前はもっと活気があったはずだ…今は自分から行動する奴が誰もいないじゃないか。業績も落ち続けているし、このままじゃ本当にまずい…）

そんな折、あるTV番組が本田の目に留まる。  
ジャパンビジネスサテライト。毎週1回深夜に放送されているビジネス番組である。  
個性の強い社長が特集されることが多いのが好きで、本田は時間が合えばよく見ていた。

「…ん!？」

今週の特集は「岡田工業」という小さな町工場。本田の目に映ったあるものが印象に残った。それは、そこで働く社員の姿と表情である。

「すごくイキイキと働いているなあ。目が輝いている。  
うちの社員とは全く違う…」

町工場も現場は大変なはず。  
この不況の中、発注元からコストダウン要請もかなりのものだろう。それなのに、ここの社員たちはとても楽しそうに働いている。どうしてこんなに楽しそうに働けるのだろう…。本田は岡田工業の社長インタビューにくぎ付けになった。

「…そうなんですよ。ウチもだいぶ苦勞してきました。  
でもね、『7つのH』に出逢ったことがきっかけで生まれ変わったんですよ。  
…ボクは Hot Willer が大好きでね。彼らを応援したいんですよ」

「ななつのえっち…？ ほっとういらー…？」  
本田にはよくわからなかったが、何かピンと来るものを感じた。

「何かすごいノウハウなのかもしれない！  
このノウハウを手に入ればウチも復活できるかもしれないぞ！」

<取材・執筆:物語ライティング>